読

13

①

どのように伝えているのかな？①

年　　組

ゴール

ゴール　文章の構成をとらえて、大切なことを読み取ろう。

はじめ

中

終わり

序・本・結とも言うね。だん落どうしのつながりを考えて分けるといいね。

説明的文章で、筆者が一番言いたいことをといいます。文章のまとめはどのだん落かな。

・文章の構成を考えて、文章全体を三つに分けることができた。 （　　　）

・文章全体から、筆者の一番言いたいこと（要）を読み取ることができた。 （　　　）

ふりかえり

Ａセミは、よう虫のあいだ何年も暗い土の中でくらす。成虫となって、ようやく外に出たと思ったら、ほんの一週間くらいで死んでしまう。そのような生き方はかわいそうだと思っていた。でも、あるときから、ほんとうにそうだろうか、と考えるようになった。

Ｂ一年じゅうほとんど雨のふらないさばくに、トビネズミがすんでいる。1日に手に入れられる水分のりょうが少ないため、体から外に出す水のりょうを少なくしたり、あせをかいたりしないような体のつくりになっている。

Ｃまた、体から水分がじょうはつしないように、昼間は、すの中にもぐりこんで生活している。すは、深さが一メートルか、それいじょうになっていて、地面よりも温度が低くなっている。また深い場所の土やすなにのこっているしめり気のおかげで体がかわきにくくなる。そのすの中で、トビネズミは、食べ物を食べたり、ねむったりするのだ。

Ｄさいしょは、さばくですむのは大変だと思った。けれど、さばくを生きにくい場所だと思うのは人間のかってで、もしかしたら、トビネズミたちにとっては、さばくこそがいちばんくらしやすい場所なのかもしれない。

Ｅ北きょくに近い寒い地域にすむハイアーテックモスというガのよう虫は、一年のうち少しだけあたたかくなる六月だけ活動する。太陽がのぼっている間は、ほとんどの時間をひなたぼっこに使って、体をあたため、植物を食べて生活をしている。よう虫たちは、太陽のねつにたよりきっているのだ。太陽が一番高く上がる六月以外は、土の中にもぐって冬みんしてしまう。地面の下にもいろいろな生きものがくらす世界がある。ふだん人間には見えないだけなのだ。

Ｆ土の中はくらくて、動きまわることもできない。人間は、とてもそんなところでくらしていけない。でも、セミのよう虫にとっては、どうなんだろう。木の根のしるをたっぷりすえて、夏はすずしく冬あたたかく、おそってくる敵もほとんどいない。土の中は、もしかしたらものすごくかいてきな場所なんじゃないだろうか。セミは、一生のほとんどを、そんなかいてきな場所ですごしているしあわせ者かもしれない。

参考文献より作成

ふしぎ新聞社　「ふしぎふしぎ２００」

北村雄一『極限生物まかふしぎ図鑑』

○　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

一　文章のだん落の組み立てを整理します。文章全体を三つに分けると、どのように分けられますか。わくの中にＡからＦのだん落の記号を書きましょう。

二　筆者が一番言いたいことが書いてあるだん落は、どのだん落でしょうか。ふさわしいだん落をえらびましょう。

三　筆者が一番言いたかったことを短くまとめてみましょう。

文章の言葉を使って書きましょう。

だん落の中心になっている文を考えてみよう。筆者の考えを表す言葉を見つけよう。

　読・13　文章の構成やろんの進め方を捉えて要しをはあくする。

読

13

①

どのように伝えているのかな？①

解　答　例

ゴール

ゴール　文章の構成をとらえて、大切なことを読み取ろう。

はじめ

中

終わり

Ａ

Ｂ　Ｃ　Ｄ　Ｅ

Ｆ

序・本・結とも言うね。だん落どうしのつながりを考えて分けるといいね。

Ｆ

説明的文章で、筆者が一番言いたいことをといいます。文章のまとめはどのだん落かな。

Ａセミは、よう虫のあいだ何年も暗い土の中でくらす。成虫となって、ようやく外に出たと思ったら、ほんの一週間くらいで死んでしまう。そのような生き方はかわいそうだと思っていた。でも、あるときから、ほんとうにそうだろうか、と考えるようになった。

Ｂ一年じゅうほとんど雨のふらないさばくに、トビネズミがすんでいる。1日に手に入れられる水分のりょうが少ないため、体から外に出す水のりょうを少なくしたり、あせをかいたりしないような体のつくりになっている。

Ｃまた、体から水分がじょうはつしないように、昼間は、すの中にもぐりこんで生活している。すは、深さが一メートルか、それいじょうになっていて、地面よりも温度が低くなっている。また深い場所の土やすなにのこっているしめり気のおかげで体がかわきにくくなる。そのすの中で、トビネズミは、食べ物を食べたり、ねむったりするのだ。

Ｄさいしょは、さばくですむのは大変だと思った。けれど、さばくを生きにくい場所だと思うのは人間のかってで、もしかしたら、トビネズミたちにとっては、さばくこそがいちばんくらしやすい場所なのかもしれない。

Ｅ北きょくに近い寒い地域にすむハイアーテックモスというガのよう虫は、一年のうち少しだけあたたかくなる六月だけ活動する。太陽がのぼっている間は、ほとんどの時間をひなたぼっこに使って、体をあたため、植物を食べて生活をしている。よう虫たちは、太陽のねつにたよりきっているのだ。太陽が一番高く上がる六月以外は、土の中にもぐって冬みんしてしまう。地面の下にもいろいろな生きものがくらす世界がある。ふだん人間には見えないだけなのだ。

Ｆ土の中はくらくて、動きまわることもできない。人間は、とてもそんなところでくらしていけない。でも、セミのよう虫にとっては、どうなんだろう。木の根のしるをたっぷりすえて、夏はすずしく冬あたたかく、おそってくる敵もほとんどいない。土の中は、もしかしたらものすごくかいてきな場所なんじゃないだろうか。セミは、一生のほとんどを、そんなかいてきな場所ですごしているしあわせな者かもしれない。

参考文献より作成

ふしぎ新聞社　「ふしぎふしぎ２００」

北村雄一『極限生物まかふしぎ図鑑』

　読・13　文章の構成やろんの進め方を捉えて要しをはあくする。

（例）外に出たら一週間くらいで死んでしまうセミは、かわいそうではなく、一生のほとんどを、土の中というかいてきな場所ですごすしあわせ者かもしれない。

・文章の構成を考えて、文章全体を三つに分けることができた。 （　　　）

・文章全体から、筆者の一番言いたいこと（要）を読み取ることができた。 （　　　）

ふりかえり

○　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

一　文章のだん落の組み立てを整理します。文章全体を三つに分けると、どのように分けられますか。わくの中にＡからＦのだん落の記号を書きましょう。

二　筆者が一番言いたいことが書いてあるだん落は、どのだん落でしょうか。ふさわしいだん落をえらびましょう。

三　筆者が一番言いたかったことを短くまとめてみましょう。

文章の言葉を使って書きましょう。

だん落の中心になっている文を考えてみよう。筆者の考えを表す言葉を見つけよう。

